

「スローガン」
“ 新時代 ”

「基本理念」

～当たり前にとらわれるな～

「基本方針」

1. 会員拡大と新入会員研修
2. 温故知新の心構えで生かすまちづくり
3. 未来を担う青少年育成
4. 青年会議所の知名度向上発信

「所信」

◆はじめに

我々は全く想像をもしない状況を目の当たりにしました。100年に1度とも言われるような新型コロナウイルスの流行により未曾有の状況に陥り、ウイルスへの警戒と社会活動への自粛を余儀なくされ、これまで当たり前だと思っていた日常が一変してしまいました。新しい生活様式の中で少しずつ社会活動を取り戻しつつありますが、経済回復への道のりはまだまだ遠く、ウイルスへの恐怖も消えたわけではなく、まさに混沌とした時代に突入したといっても過言ではないでしょう。そのような時代を迎えた今だからこそ、我々はJayceeとして今一度「青年会議所とは何なのか」ということと真剣に向き合う必要があるのではないのでしょうか。人々が経験したことのない国難とも呼べる社会状況の中で、人々の行動は変容し、価値観までもが変わるという状況下に我々は立たされています。この状況下に立ち、我々青年は現実を直視し、未来を創造していかなければならないのです。

◆25周年を迎えて

1998年に（社）丸亀青年会議所と（社）善通寺青年会議所が統合し、全国で770番目として生まれた青年会議所です。変わらない基本理念の下、様々な運動発信によりまちと人に影響を与え続け25年の時が過ぎようとしています。この歴史を一つの節目とし、先輩諸氏が紡いできた願い、熱い想いを振り返るとともに、大きく変化する時代で活躍することができる（公社）さぬき青年会議所を創造してまいります。そして、新たな時代へ向けた指針となるビジョンを広く発信し、未来へ挑戦し続けることができる組織へと進化させ、明るい豊かなまちの発展につなげてまいります。

◆会員拡大と新入会員研修（会員拡大研修委員会）

青年会議所には40歳定年制や単年度制といった、「常に新陳代謝を繰り返す」というメリットがあります。このメリットを最大限に活かすためにも新しい仲間による「新たな風」は必要不可欠です。組織を弱体化させないためにも、活動の規模を縮小させないためにも、毎年しっかりと拡大活動を行っていかねばなりません。そのためには、拡大を担当する委員会だけに任せるのではなく、「会員拡大はメンバー全員の使命」とメンバー全員が責任を持ち、主体的に会員拡大に取り組まねばなりません。そして、入会してくれたメンバーが気持ちよく活動に取り組んでくれるためには、入会に導く際にJCのことをわかりやすく、きちんと説明することが大切です。そのためには、まずはメンバー一人ひとりがしっかりとJCのことを理解していなければなりません。つまり、全員で拡大活動を行うということは相手にしっかりと説明出来るくらいまでJCのことを理解していなければならない、ということになるのでメンバー一人ひとりのJayceeとしての成長にも繋がります。さらに、新しいメンバーの拡大は人との出会いです。出会いは人を成長させます。新しく入会してくれるメンバーも、今いるメンバーも、お互いにこれまで出会ったことがないような人と出会うことは自分を成長させることに繋がります。拡大は自分自身を成長させる「学びと出会いの場」とであると楽しみに捉え、メンバー一人ひとりが拡大に責任と主体性を持ち、「メンバー全員拡大」で取り組みます。

◆温故知新の心構えで生かすまちづくり（温故知新委員会）

近年、わが国でも新型コロナウイルスの影響により、祭りの火が消えました。これまでの伝統文化を次世代へと継承していく事が難しくなってきました。生活様式も大きく変わり、リモートワークや時差出勤、オンライン化が定着しています。新型コロナウイルスによって起きた変化はコロナ禍後も変わらず、新しい生活様式として定着すると言われていています。このような状況だからこそ私たちは青年として行動力と情熱で地域の旗振り役となれるよう行政・他団体・活動地域の人々と協働し、2市4町の発展・活性化に貢献していくことが必要だと考えます。

「明るく豊かな社会」の実現を目指すことは青年会議所として、また地域に住む私たちの責務です。コロナ禍によってもたらされた変化を前向きに捉え、新たな様式を取り入れた運動を展開したいと考えています。そして子どもからご年配の方まで全員がまちの未来を想像し、希望を持てるようなまちづくりを目指していきます。

◆未来を担う青少年育成（青少年育成委員会）

子どもは国の宝です。未来の担い手である子どもたちの健全な育成は明るい社会の実現には必要不可欠であり、責任世代である我々青年の責務であります。今の子どもたちが大人になる頃、この国は、このまちはどんな風になっていることでしょうか。例えば、学校の授業にタブレットを用いたりオンラインで授業をしたりすることなど自分たちの子どもの頃からは想像すら出来ないと思います。ましてやウイルスの流行でこれまで当たり前に通っていた学校にも行けない、友達とも遊べない、そんなことを経験するなんて誰も想像していなかったと思います。子どもたちが、変化の激しいこの時代を生き抜き輝かしく成長していくためには、いかなることにも対応出来る力を多くの子どもたちに育成する必要があると思います。失敗に臆することなく、どんな逆境にも立ち向かっていけるような「生きる力」を身に付けて貰えるような事業を実施し、様々なことを自分の目で

見て体験する経験を通して子どもたちの成長に繋げて参ります。そして、子どもたちと真剣に向き合い、責任を持って伝えていくことでメンバー一人ひとりの成長にも繋げて参ります。

◆青年会議所の知名度向上発信（デジタルインフォメーション委員会）

我々の活動内容等の情報を積極的に世の中へ発信し、青年会議所に興味を持って頂き、社会からの知名度と信頼度を高める必要があります。今やインターネットは情報の宝庫です。いろいろな情報がインターネット上に出回っている通り、テレビのニュースや新聞紙面で情報を入手するより私たちはインターネットからいち早く様々な情報を見聞きすることが出来ます。私たちの活動内容を多くの市民に発信していくためには、その発信力やスピード感から考えてもインターネットによる広報活動は必要不可欠です。また、自分たちの活動が広報を通して「見える化」にすることというのはメンバーの達成感やモチベーション向上にも繋がります。さらに、多くの人々に（公社）さぬき青年会議所の運動内容を知って貰うということは、「青年会議所がこういうことを行っているなら、こんなことをやってほしい」など、地域の人々が私たちに求めることを情報として入手することが出来やすくなり、その声に耳を傾けていくことは活動地域の人々とより良好な相互関係を構築することに繋がります。それは今まで以上に信頼される組織になることに繋がります。我々の活動内容を多くの市民に発信すると共に、青年会議所という存在を皆さまに定着させて信頼される組織へと更に飛躍していくために、現状の広報ツールに甘んじることなく、ホームページやSNSをブラッシュアップしていきます。

◆結びに

本年度、創立25周年の新たな時代を踏み出します。これまでの歴史と伝統を十分に理解し受け継ぎながら、新たな時代を創るために、青年会議所運動を展開して参ります。組織を活かすも殺すも全ては「人」とであると私は思います。自分たちが属している組織に対し、一人ひとりが価値を見出し理解がなされた時、個々が持つ力を最大限に発揮できるのではないのでしょうか。そんな個々の英知と勇気と情熱が一つの大きな塊となった時、このまちの人の心を動かす力強い運動に繋がると確信します。我々（公社）さぬき青年会議所がいつの時代も明るい豊かな社会の実現を目指す主体的組織であるために、メンバー一人ひとりが自分自身を高めていかなければなりません。まずは自分自身の成長のために学びの歩みを止めることなく行動していく事を努めます。